

6 災害調査 課題名 石川県金沢市医王山スキー場で発生した雪崩調査

研究代表者	雪氷防災： 山口 悟	実施期間	平成 17 年度
研究参加者	雪氷防災：山口 悟 北陸大学薬学部 竹井 巖		

[ 目 的 ]

1月15日午前4時ごろ、金沢市の医王山スキー場でゲレンデの一部に雪崩が起きているのを、斜面の雪をならすため圧雪車を運転していた職員が発見した。今後の雪崩対策ならびに雪崩研究に資することを目的とし、現場の雪質状況等の調査を行った。

[ 実施内容 ]

雪崩が発生した医王山スキー場内のゲレンデにおいて1月17日に断面観測を行った。その際にスキー場の職員に発生状況等に関する聞き込みを行った。また雪崩の規模の測量を行った。

[ 成果と効果 ]

雪崩の規模は長さ約 50m、幅約 100m の規模の全層雪崩であった(図1)。スキー場の職員の話だといままで同スキー場で雪崩が発生したことはなかった。平成 17 年 12 月から続く異常寒波に伴う豪雪により、例年よりも多くの積雪があったたことに加え、暖かい日が続いたあとに多量の雨が降ったために今回の全層雪崩が生じたのではないかと推定される(図2)。断面観測の結果、積雪層の下層部では、密度が  $500\text{kg m}^{-3}$  に近い層が存在していることがわかった(図3)。



図1 医王山スキー場の雪崩現場

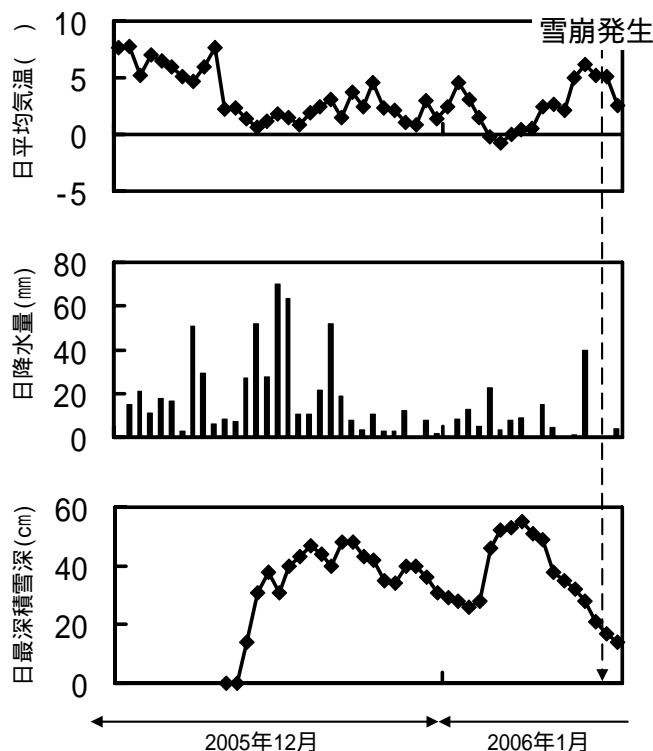


図2 金沢地方気象台における気象データ

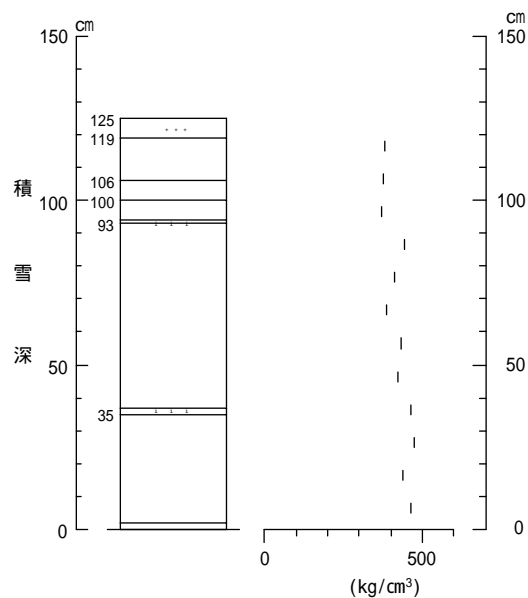


図3 断面観測結果